

# 家庭教育つうしん

令和6年2月発行第86号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課  
課長 千葉 真奈美  
(電話 26-7308)

メール：shakaikyoutukuka@city.shibetsu.lg.jp  
作成者：士別市家庭教育推進員 共同作成

## 様々な体験・交流の機会について

子どもたちは、屋外で遊ぶ際に自ら遊びを考案したり、遊びのルールを友だち同士で取り決めたりする経験を重ねるなかで、周囲と協調することや規範意識を遵守することの重要性を学んでいきます。しかし、子どもたちの直接経験が不足することで、このような創意工夫や協調性を育む機会が減少しております。

そこで今回は、「様々な体験・交流の機会」をテーマに、家庭教育推進員からの情報をお届けします。

## 「心とからだを育む運動あそびを！」

幼児期に、さまざまな体験活動を行うことは、生涯にわたっての健康づくりや、物事に積極的に取り組む意欲の育成など、豊かな人生の基盤となります。近年は、社会全体が豊かで便利になる一方、子どもの外あそびやお手伝いなどの体験が減り、運動機能の低下が問題となっています。子どもにとって、からだを使う運動あそびは、子どもの成長・発達にとって必要不可欠です。人間の運動機能に関わる神経系は生後6年間で成人の90%近くまで発達するといわれます。運動あそびをすることで多様な刺激を受けると神経回路は大きく発達します。また、からだを動かすことは、生活リズムを整え、自律神経機能の低下を防ぎます。自律神経機能の働きが低下すると、体温調整ができず、からだを守れなくなり意欲が低下してしまいます。からだを動かすことは、「自分でできる」という達成感の獲得にもつながります。先生や家族、友だちと一緒に遊ぶことで、楽しさや喜びだけではなく、不安や怒りなど、さまざまな感情を体験し、コミュニケーション能力のアップにもつながっていき、ルールの解釈、理解等にも発展します。こどもの心身すべてに必要なものを体験できる、運動あそびを大切にしたいですね。

(北星保育園副所長：宮田推進員)

## 「経験が人を育てる」

人は、経験から成長するものです。ゲームの世界では経験値という言葉で、経験による成長を表現しているものもあるくらいです。経験は単なる数値で表すことのできない、多様な成長をさせてくれます。

子どもは(大人も)、いろいろな出来事に出会ったとき、自分に似たような経験をしたり見聞きしたりした場合は、安心感や見通しをもって対応できるものです。上手にできた経験があるなら自信をもって取り組みます。一方、簡単にはできないことを難くこなす様子に対しては、技術の高さだけでなく努力に対する敬意も抱く場合があります。このように経験によって、自己肯定感が上がるとともに、他者への理解が深くなり、共感、感謝、尊敬の気持ちも育ちます。

いつ、どんな経験をさせるか、その経験をどう価値づけるかも、経験の意味を変えていきます。失敗や挫折でさえ、価値づけの仕方プラスの意味をもたせられます。できるだけ小さいうちに、正しいこと、本物に触れることを経験させるとともに、自分が成長したことや、人から愛されていることを実感できる経験を、また自分で考えて行動し、やり遂げた経験を、ぜひ、たくさんさせてあげたいと思います。

(温根別小学校教頭：大久保推進員)

## 「体験活動参加者の様子」

士別市教育委員会では、「士別ふるさと体験広場」、「チャレンジスクール」、「しべつチャレンジ寺子屋」、「1市2町合同ジュニアリーダー研修会」を主催して、様々な体験活動を実施しています。

参加した児童からは、体験活動を楽しむ姿、初めての体験に戸惑いながらも楽しんでいる姿が見られます。士別ふるさと体験広場文化体験コースで吹奏楽体験をした児童は、中学校で吹奏楽部に入部したり、茶道体験を機に茶道を習い始めた子もいます。

また、異なる学校や学年の児童が集まって体験活動を行うと、最初は緊張していますが、徐々に雑談や譲り合うな

ど、関係性が構築されていきます。

体験活動は、今後の人生の選択肢を増やすきっかけづくりになり、そこで得た交流で他者とのコミュニケーションや協力する力を育成します。学力テスト等では測れない非認知能力（コミュニケーションや粘り強さなど）は、様々な文化や人と関わることで伸びると言われています。「参加してみたら楽しかった」ということもありますので、少しでも興味があったら参加してみたいはかがででしょうか。

（士別市教育委員会社会教育課主事：田中推進員）

## 「身近なところから育もう！」

「何をするにも時やタイミング」があると言いますが、幼児期は年齢発達や春夏秋冬の四季に合わせた**遊びと生活**を大切に、様々な体験の場や環境を整えてあげたいものですね。特にこの頃の**親子体験**はお子様方の記憶に残り、その後は**自らの力で何事にもチャレンジしていく力の源**となることでしょう。ぜひ、身近な場所へと足を運び、情報を得たりしてみたいはかがででしょうか。

先日、北国士別の冬の大イベント「第69回しべつ雪まつり」に参加しました。自然の厳しさや寒さを楽しさに変える冬ならではの催しは、士別っ子のたくましい笑顔に溢れていました。大人も子どもも、挨拶やコミュニケーションをかわす中で、自然に社会性が養われていたことを実感するとともに大変有意義でした。

何かと多忙な現代ではありますが、私たちのまわりには温かいコミュニティや学びの場がたくさんあることを知り、家庭教育がさらに豊かになりますよう願っています。

（士別幼稚園園長：谷推進員）

## 「様々な体験・交流の機会についてのおすすめ本」



「おばあちゃんがちいさかったころ」

評論社（1997.5） J.P.ウォルシュ ぶん S.ランバート え

おばあちゃんが小さかった頃は、今とこんなに違っていたのよ。優しい会話のやりとりで昔を振り返ります。お話の最後、孫のロージーの、じゃあ昔の方が良かった？という問いかけに、おばあちゃんは何と答えるのでしょうか。じゃあパパやママの小さかった頃は？もっともっと昔はどうだったのかな？お話をきっかけに、世界はどんどん広がっていきます。想像する楽しさ、知る喜び、自分の経験を補う読書体験の醍醐味をどうぞ。



「イチからつくるワタの糸と布」

農文協（2018.3） 大石 尚子 編 杉田比呂美 絵

身近に当たり前にある色んな物を本当にイチから手作りしたら、どうなるのでしょうか？種からワタを育て、段ボールなど簡単に手に入るもので手作りの道具を使って、布を織るところまで詳しく楽しく学べる1冊です。布の歴史や、奴隷問題などのコラムもあり、環境や未来についても考えることができます。接着剤やチョコレート、ラーメンなど、シリーズあわせてお楽しみください。



「豚のPちゃんと32人の小学生」

ミネルヴァ書房（2003.6） 黒田 恭史 著

映像化をとおして有名になった「命の授業」の記録。小学校の教室で豚を飼い、最後に肉にするか、ペットとして飼い続けるか真剣に話し合ったノンフィクションです。今ではネットで調べれば大抵のことは分かった気持ちになれますが、実際に目で見、肌で感じた経験は子どもたちの成長に絶対必要なステップとなります。本気のぶつかり合いや、支える大人の大切さも、伝えていきたいですね。

これらの本のほかにも、関連する図書を貸し出ししています。ぜひ図書館へお越しください。

（市立士別図書館司書：安藤推進員）